



しばた議会だより



はずんだ心で 1・2・3

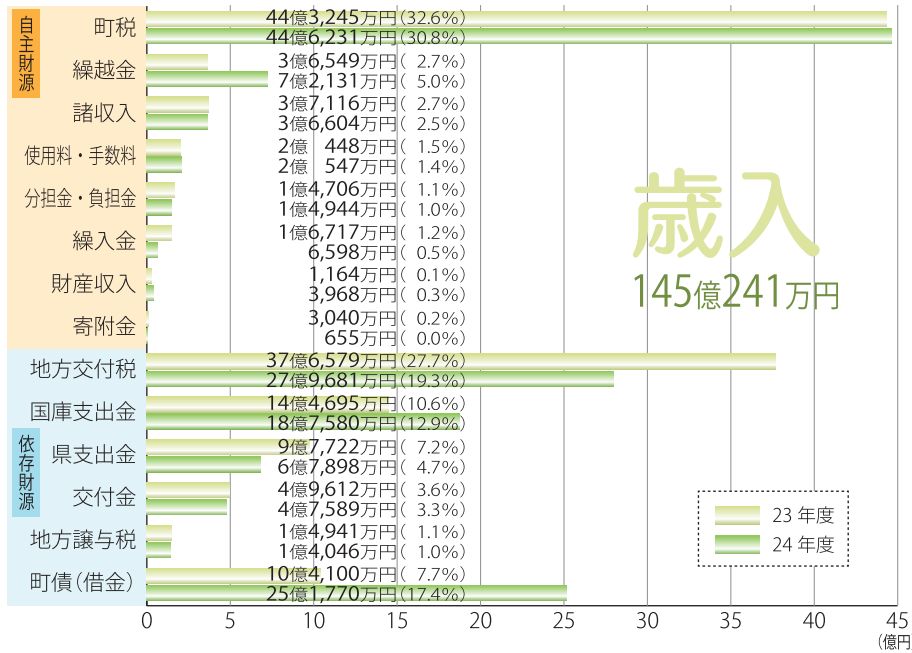
(ノルディックウォーキング 船岡城址公園)

■平成24年度決算	2・3
■総括質疑	4
■決算審査特別委員会	5～7
■9月会議	8
●補正予算 ●教育委員を任命 ●議案に対する賛否 ●議会の出欠状況	
■3町共同給食センター建設実らず	9
■10月会議	9
■一般質問(17人)・その他の質問	10～19
■議会懇談会 一般懇談会・婦人防火クラブとの団体懇談会	20～21
■常任委員会リポート	22
■産業建設常任委員会報告 雨水対策事業スタート	23
■あなたの一言(伊藤 章子さん)	24

認定

139億円

の使い道は適正か



平成25年9月会議は、9月2日から12日までの日程で開催されました。

平成24年度の一般会計及び各種特別会計、水道事業会計の決算では、3人の総括質疑を行った後、決算審査特別委員会を設置し、詳細にわたり審議した結果、すべての会計を原案のとおり認定しました。

このほか、補正予算7件、人事案件1件など(8ページ参照)を原案のとおり可決、同意しました。

一般質問は、9月2日から4日までの3日間で行われ、17人の議員が質問し、項目は31件でした。

平成24年度決算一般会計歳出は、約139億円となり、平成23年度と比較すると10億2千万円の増で最高規模となりました。

これは、平成23年度に続き、道路や下水道の復旧復興事業を進めたこと、槻木中学校校舎新築、北船岡町営住宅2号棟の建設、船岡新築4号公園などによるものです。

町は、中、長期的な財政運営を展望し、戦略的な先行投資や事業の優先順位を明確にし、最大限努力する必要があります。

最高規模の決算



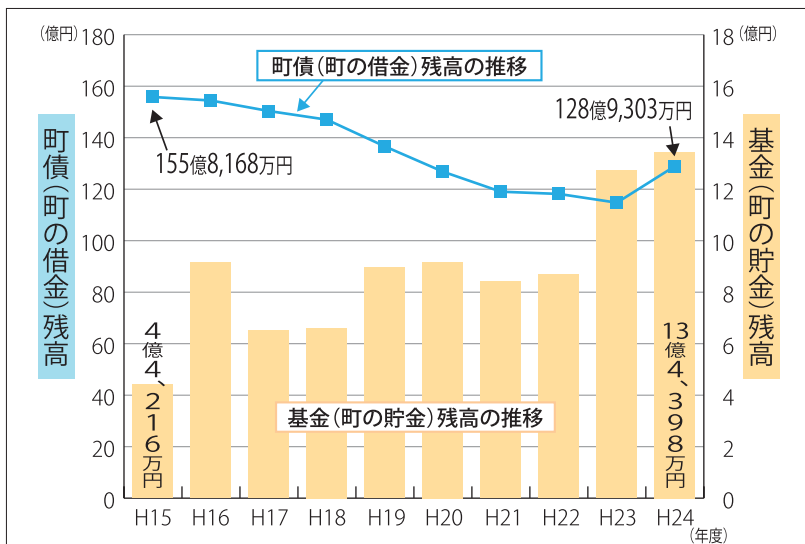
槻木中学校新校舎完成



四日市場 1号線道路改修



デマンド型乗合タクシー「はなみちゃんGO」運行開始



*平成24年度町債は、一般会計分(124億5,303万円)と土地取得特別会計(4億4,000万円)の合計です。

*基金残高は、財政調整基金と町債等管理基金の合計です。

平成 24 年度 一般会計

積極的な投資！

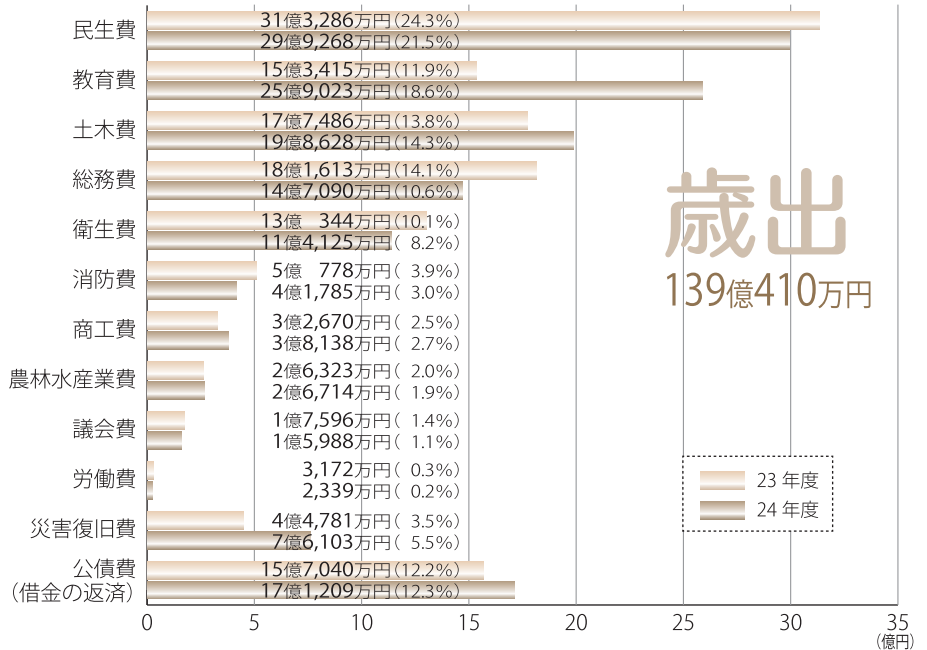
最高規模予算

平成 24 年度

主な実施事業と金額

放射能対策事業	4,038 万円
※市街地整備総合交付金事業	1 億 7,019 万円
北船岡町営住宅建設事業	6 億 1,680 万円
船迫小学校大規模改造工事	9,000 万円
土木施設災害復旧対策	7 億 123 万円

※船岡新栄 4 号公園、(仮称)さくら連絡橋など関連事業



除染した西船迫保育所

柴田町の財政は 健全化判断指数

町長から報告された健全化判断指数率を紹介します。

項目	23 年度	24 年度	早期健全化基準
○実質公債費率	13.0%	11.8%	25.0%
○将来負担費率	64.8%	70.7%	350%

※数値が大きいのほど固定経費、借金の支払いが大きく、財政運営が大変な状況を示します。
 ※数値が少ないほど将来の負担が少なくなります。(借金の支払いなどが減っていく)

監査意見

多額な不用額が生じないように

平成 24 年度一般会計及び各種特別会計の決算審査の結果、いずれも正確と認められる。関係基金の運用状況についても適正に運用されている。なお次の点について改善が必要である。

一般会計

放射能対策費として、多額の不用額が出たが、予算管理上好ましくないことから、減額補正を組み、議決を経て処理をすべきである。

水道事業会計

近年と比べ使用水量が減少となっている。今後配水量が大幅に増えることは想定し難いだけに、より一層の経営努力が望まれる。

監査委員 中山 政喜
我妻 弘国

討論 認定第 1 号 平成 24 年度柴田町一般会計 歳入歳出決算の認定について

反対討論

広沢 真議員

平成 24 年度一般会計 決算は、大型公共事業と国の補助、交付金事業が多い。補助事業もすべてが補助金ではなく、数が多くなれば町債残高も増え将来に不安を残す。地方財政削減の流れが強まるなか危機感が必要である。

賛成討論

平間奈緒美議員

平成 24 年度決算額は、近年にない大きな規模となった。これはきめ細やかな事業展開や行政課題の解決に向け、積極的に取り組んだ結果である。財政健全化の指標は基準を下回り、次年度へ財源を確保したことは評価できる。

総括質疑



白内恵美子 議員

問 今後の行財政運営の改善策は

平成24年度予算は未
来への投資元年と位置
づけ、柴田町を次なる
発展のステージに導く
政策に重点を置いた。

しかし、財政状況は、
地方財政のエンゲル係
数と言われる経常収支
比率が93・1割、赤字
補てんの借金である臨
時財政対策債を除くと
101割となり、新たな投
資的経費のない硬直化
した状況となっている。
今後の事業計画は税
収の増える要素がない
ことから、将来の財政
負担を考慮した上での
取捨選択が必要である。
今後10年間の歳入の
見通しと、行財政運営
の改善策について伺う。

答 過度に起債に
依存しない手法に
取り組む

ここ10年来で最高の歳
入・歳出となり、投資的
経費も31億円を確保する
など、未来への投資元年
となった。

歳入の見通しは、根幹
をなす町税は増える要素
がなく減少傾向が続く。
依存財源である地方交
付税は不確定要素が多い
ため、長期的には見通せ
ない状況にある。
財政の健全化を確保す
るためには、義務的経費
を縮減する必要があり、
公債費の削減は避けて通
れない。大型事業を行う
際には事前に目的基金に
積み立てるなど、過度に
起債に依存しない事業手
法に取り組んでいきたい。

問 すばやく対応が
住民サービスでは

(1) 水害対策、生活道
路の整備や改修などが
重要課題である。すば
やく対応することが住
民サービスではないか。
このことから平成24年
度の進捗状況と今後の
課題について伺う。

(2) 白石川堤外地環境
整備の実施計画の進捗
状況とこれからの展望
を伺う。
(3) 公園施設長寿命化
計画の進捗状況と今後
の取り組みについて伺
う。
(4) 学校整備が行われ
ているが、体育館や
プールの痛みも目立っ
てきている。今後の整
備計画について伺う。

答 9月発注3件で
全て完了

(1) 平成23年度繰越事業
16件、平成24年度明許繰
越事業18件完了。災害復
旧工事22件のうち14件が
完了で5件が工事中で、
10月完了予定。残り3件
が9月発注予定である。

(2) 白石川堤外地環境整
備は本年度から2力年で
整備する計画で、本年度
は一部工事に着手する。
(3) 平成24年度の委託で
実施した。計画書に基づ
き遊具の更新や改修を行
う。
(4) 生徒の安全確保を優
先に、必要に応じて修繕
を行う。船迫中学校の屋
上防水改修や榎木小学校
のプール改修工事実施設
計業務委託は、すぐに着
手する。



高橋たい子 議員

総括質疑



水戸義裕 議員

問 適度の剰余金は
必要だが、出れ
ばいいというも
のではない

答 最小の経費で最
大の効果を挙げ
た結果、発生し
たもの

(1) 平成24年度は震災後
の復旧復興の中、予算執
行の結果、各会計におい
て黒字・剰余金が出たが、
出ればいいというもので
はない。この要因をどう
考えるか。

(2) 後期高齢者健康診査
の対象者が増えているの
に、受診率が3年間横ば
いだ。受診率向上の取り
組みは。
(3) 農業政策では、高齢
化・担い手不足、耕作放
棄地増加や有害鳥獣被害
が増加傾向の中、本町農
林水産業費の決算構成比
が低下傾向ではないか。
人・農地プランなど今後
の政策をどう考えるのか。

(1) 国県の事業を積極
的に活用し、多くの住
民サービスや復旧事業
の繰り越し、予算の組
み替えなど特殊な要因
もある。

本町の財政状況は危
機を脱しているが、財
政規律を保ちつつ健全
な運営を心がける。
(2) 対象者へ診査の意
義を訴え、受診率の向
上に努める。
(3) 農林水産業費は同
額で推移、仙南では高
い評価である。基盤整
備を実施し、集落営農
の推進と農村環境を維
持する政策を展開する。

総括質疑

あなたの税金の使い方を審査しました！

歳入

法人、個人町民税が高い伸び率。その要因は

質疑 法人町民税が37・8割、個人町民税が5・8割増と高い伸び率である。その要因は。

答弁 震災の影響があまりなかったことで、県内の需要を引き受けたと考えられる。個人町民税の伸びは、震災以降、労働環境の改善が認められ、所得が伸びたとみられる。

平成25年度の 税収見込みは

質疑 平成24年度は前年度より調定額、収入額とも増加したが、25年度現在の状況として、同様の税収が見込めるのか。

答弁 固定資産税は土地の価格の下落で、額は少なくなっている。町県民税、軽自動車税、たばこ

税は前年度を上回る。法人町民税は営業の状況が悪いということで、今後の推移を見ていく。

交通安全対策 特別交付金で 街路灯を

質疑 交通安全対策特別交付金は、交通安全施設の整備と使用目的は決められているが、街路灯に充てられるか。

答弁 現在、みやぎ環境税とあわせて、子どもたちの通学路を中心に整備を図っている。

未納額の 改善策は

質疑 町営住宅家賃使用料の未納額が増加している。新たな改善策の取り組みは。

答弁 平成8年から積み上げてきたものもある。入居している間は、※不納欠損をしないで納めていただく努力を続けている。今後も本人及び、連帯保証人にも求めていく。徴収で一番大切にしていることは、足を運び、顔をつなぎ、信頼を築いていくことである。

入札関係は 高止まりだが、 25年度は

質疑 東日本震災の影響により、入札関係で高止まりしているのではないかと。平成25年度の推移をどのように見るのか。

答弁 平成24年度は物価や賃金の高騰などが見られた時期であった。工事中に資材・賃金の高騰があったが、企業に努力して頑張っていた。25年度の入札は、高止まりの数字で推移している。

毎年削られている 国有提供施設等 所在市町村交付金は

質疑 国有提供施設等所在市町村交付金が、年々削られている。駐屯地がある町村同士で国に意見書を出したが、効果もなかった。今後の町の取り組み方は。

答弁 「基地交付金」と呼ばれるものである。国の予算全体が削減され、危険な基地、問題がある施設に比例配分されている。



街路灯は通学路安全対策の1つ



高止まりする入札

歳出

職員研修の充実を

質疑 職員に、内容の充実した研修が必要ではないか。

答弁 平成25年度から1カ月研修やアカデミー研修にも参加させている。今後も、内容の充実した研修に参加させていく。

再任用マニュアル作成の進捗状況は

質疑 今後10年間で129人

の職員が退職する。再任用マニュアル作成の進捗状況は。

答弁 10月には作成案を示す。

はなみちゃんGOの現況は

質疑 はなみちゃんGOの登録者数と利用者数は。

答弁 登録者は、平成25年8月末で2千2人。24年度の1日平均利用者は、47・6人。25年8月では、74・2人と増えている。

男女共同参画事業の今年度の予定は

質疑 平成24年度に、女



「ちょこっと、しばたび。」英語版

性を対象に3回の講座を開催したが、今年度の予定は。

答弁 11月に100人程度のワークショップを計画している。

LEDの贈呈1千500基の現況は

質疑 1千500基のLEDの在庫数と、今後の活用予定は。

答弁 2年間で約400基を設置し、現在1千100基残っている。行政区の相談にも対応し、早めに在庫ゼロにしていきたい。

リーフレット

「ちょこっと、しばたび。」について

質疑 タウンセールス事業で作成された「ちょこっと、しばたび。」のPR効果は。

答弁 英語版9千部、日本語版1万部を作成した。各小中学校と、桜まつり期間中に外国の方たちにも配布し、PRに努めている。

車載インバーターで酸素圧縮器の利用を

質疑 停車時には車載インバーターが利用できる。酸素圧縮器も使用できるのでは。

答弁 研究し、情報提供に努めていきたい。

野良猫対策は

質疑 野良猫が非常に目につく。被害の声も伺っている。野良猫対策は。

答弁 ペットの正しい飼い方、愛されるペットになるよう、広報しばたび、お知らせ版などで周知する。また、環境フェアでペットコーナーを設け、正しい飼い方のPRもしていく。

民生委員の現状は

質疑 後継者がなかなか見つからない民生委員。現状は。

答弁 平均年齢66・5歳。今年改選期にあたり、3人増員の75人となる。更新にあたり行政区長に苦



市販されている車載インバーター

福祉避難所の内容は

質疑 福祉避難所として5団体8施設とあるが、内容は。

答弁 平成24年7月17日に町内福祉施設と協定を結んだ。災害時の高齢者、障がい者の受け入れ施設で、収容人数は全体で約30人である。

在宅酸素療法者への停電時の対応は

質疑 在宅酸素について、震災時に長期的な停電で、

大変な思いをした。今後の対応は。

答弁 発電機が供給可能であれば、福祉避難所または指定避難所に対応していきたい。

家庭児童相談委員の利用は

質疑 子育て中の保護者の不安の軽減に努めたところがあるが、相談件数は。

答弁 平成24年6月から、子ども家庭課の事務所内に配置した。今年7月までの1年間の相談件数は102件で、内容は、ほとんどが離婚による相談である。

**仙台大学と連携し
健康管理を**

質疑 仙台大学と連携した健康づくり事業を。

答弁 健康推進の分野で、引き続き大学が持っている人的・物的資源を活用して、事業継続をお願いしていく。

**待機児童に対して
今後の取り組みは**

質疑 保育所の待機児童数と、3歳未満児の待機解消の取り組みは。

答弁 現在の待機児童数は34人。うち、3歳児未満は22人。待機児童を解



待機児童解消に一役買う小規模保育

消するために、小規模保育をしている方に何人かでも預かっていただきたと考えている。

**(仮称)仙南夜間急患セ
ンターの内容は**

質疑 仙南2市7町で進めようとしている(仮称)仙南夜間急患センターの内容は。

答弁 大河原町が開設者で、運営者も大河原町で、診療科目は内科。平日の夜7時から10時までの診療である。

**今後の
農業基盤整備は**

質疑 農業基盤整備の負担金補助の

中身は。また今後の基盤整備は。
答弁 負担金補助は、すべて土地改良事業で、用水、排水などの負担金の償還金である。今後は、ほ場整備を進めていきたい。



雨水が溜まる西住小学校前排水路

**大住町や清住町の
排水路のしゅんせつを
行っているのか**

質疑 常時排水路に水が溜まっている状況だが、しゅんせつを行っているのか。

答弁 大住地区、西住小学校前の排水路しゅんせつを今年実施したが、雨水が溜まる状況が続いている。

**スクールゾーン内の
安全確保を**

質疑 危険ブロック塀除去事業で、残りの5件はどのような状況になっているのか。

**トルコギキョウを
柴田町のブランド化に**

答弁 できるだけ早く除去して、軽量化し安全なものにしてほしいと働きかけを続けていく。

質疑 柴田町のブランド化を図る観点から、トルコギキョウに対する補助

制度が始まった。現時点でブランド化が図られたか。

答弁 市場関係者の話では、とても期待しているというところで、ブランド化が図られた。今後も継続して生産していくために、後継者を育てていく。

**サマースクールの
内容は**

質疑 平成24年から夏休みに行っているサマースクールの内容は。

答弁 町内小中学校の夏季と冬季あわせて85日間で、参加児童生徒数は3千605人。自分で勉強したいものを持ち寄って、指導する支援員と勉強する仕組みである。

**老朽化した
公共施設の対策は**

質疑 公共施設の建物や設備に破損、故障が出て

質疑 第1回行政区対抗玉入れ大会の反省点と、平成25年度に向けての取り組みは。

**行政区対抗
玉入れ大会の
取り組みは**

いる。その対策は。
答弁 いずれの施設も10年から30年以上経過している。計画的に維持管理を図っていく。

答弁 震災復興予算で、玉入れの道具を購入。23年度で道具の購入が決定していなかったため、周知が遅れた。昨年の参加

チームは28チーム。今年度は、早く広報活動をして、すべての行政区が参加できるように進める。



築40年を越えた船岡公民館

9 月会議
 平成 25 年度
 補正予算

(仮称)船迫子どもセンター新築工事

3億1千万円

7億2,240万円 増額補正

船迫中学校屋上防水改修工事、中学3年生インフルエンザ予防接種委託料など



建て替えが決まった船迫児童館
 (仮称)船迫子どもセンター建設予定地

質疑 公民館費で計上している電気陶芸窯は、どこに設置するのか。
答 榎木生涯学習センターに設置する。

電気陶芸窯設置へ

答 51基の新規設置と灯具を交換予定。地域は5カ所。みやぎ環境税でできない部分の通学路を、重点的に整備していく。

質疑 交通防犯対策費の防犯灯新設工事では、何基設置予定か。

通学路を重点的に

平成25年度一般会計補正予算は、(仮称)船迫子どもセンター新築事業、道路関連事業など総額7億2,240万円の増額補正となり、原案のとおり可決しました。

陶芸窯は開館当時より使用しており、傷みが激しいため、今回新たに購入することとなった。

一般会計補正予算の主なもの	
船迫中学校屋上防水改修工事	330万円
中学3年生インフルエンザ予防接種委託料	123万円
榎木小学校プール改築工事実施設計業務委託料	630万円
町営住宅管理事業(手すり、避難器具改修工事など)	750万円

人事案件

○教育委員会委員の任命に同意



日下 輝美氏(新任)
 (船岡土手内)

本会議出欠状況・議案等審議結果

●本会議出欠状況

区分	主な内容	月日	出席者数 欠席者数	出 欠 状 況																
				平間 幸弘	桜場 政行	吉田 和夫	秋本 好則	斎藤 義勝	平間 泰緒美	佐々木 裕子	高橋 たい子	安部 俊三	佐々木 守	広沢 真	有賀 光孝	水戸 義裕	舟山 彰	白内 恵美子	我妻 弘国	星 吉郎
(平成25年度) 9月会議	本会議	町政報告、一般質問	9.2	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		一般質問	9.3	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		一般質問、人事案件	9.4	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		補正予算	9.5	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	決算審査 特別委員会	平成24年度各種決算上程・総括質疑	9.6	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		正副委員長の互選等	9.6	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		平成24年度決算認定審議	9.9	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
本会議	平成24年度決算認定審議	9.10	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成24年度決算認定審議	9.11	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成24年度決算認定採決、陳情	9.12	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
(平成25年度) 10月会議	本会議	平成24年度決算認定採決、陳情	10.9	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※「○」は出席、「欠」は欠席、「早」は早退、「遅」は遅参を表しています。 ※議長は決算審査特別委員にはなりません。
 ※決算審査特別委員会中、「監」は説明員(議会選出監査委員)として出席していることを表しています。 ※平成25年4月から通年議会が始まり、会議の呼び名も〇月会議となりました。

●議案等審議結果

区分	件 名	議決日	賛成者数 賛成数	賛 成	議決結果	表 決 状 況															
						平間 幸弘	桜場 政行	吉田 和夫	秋本 好則	斎藤 義勝	平間 泰緒美	佐々木 裕子	高橋 たい子	安部 俊三	佐々木 守	広沢 真	有賀 光孝	水戸 義裕	舟山 彰	白内 恵美子	我妻 弘国
(平成25年度) 9月会議	教育委員会委員の任命について	9.4	17	17	同 意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成25年度柴田町一般会計補正予算	9.5	17	17	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成25年度柴田町特別会計補正予算(国民健康保険事業、公共下水道事業、介護保険、後期高齢者医療、土地取得)	9.5	17	17	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成25年度柴田町水道事業会計補正予算	9.5	17	17	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成24年度柴田町一般会計歳入歳出決算の認定について	9.12	17	16	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成24年度柴田町特別会計歳入歳出決算の認定について(国民健康保険事業、公共下水道事業、介護保険、後期高齢者医療、土地取得)	9.12	17	17	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成24年度柴田町水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び決算の認定について	9.12	17	17	可決及び認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成25年度6月会議時 産業建設常任委員会付託 陳情第1号 私道を町道に(求める陳情)	9.12	17	15	不 採 択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成25年度(仮称)さくら連絡橋新設工事(債務負担行為)委託契約について	10.9	16	14	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成24年度(仮称)さくら連絡橋建設工事(桁製作)請負契約について	10.9	16	14	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
(平成25年度) 10月会議	平成24年度(仮称)さくら連絡橋建設工事(III工区)繰越明許)請負契約について	10.9	16	13	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成25年度 柴田町公共下水道事業新築汚水枝線その1工事請負契約について	10.9	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成25年度 柴田町公共下水道事業大原汚水幹線工事請負契約について	10.9	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成25年度 柴田町・大河原町公共下水道事業鷺沼1号雨水幹線工事請負契約について	10.9	16	16	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※「○」は賛成、「否」は賛成しないことを表します。
 ※「議」は表決時に議長のため、また「-」は表決時に議場にいないため表決に参加していないことを表します。
 ※紙面の都合上、特別会計については、まとめて表示しています。なお、ホームページでは、議案ごとに表示しています。

3町共同学校給食センター建設、実らず… 施設修繕などで対応

学校給食センター 町単独建設に

議会では、3町共同学校給食センター検討会が昨年8月に設置されたことにより、数回にわたり協議を重ねてきました。

しかし、8月28日に行われた村田町議会産業建設教育常任委員会で「町単独での給食センター建設に関する請願」を採択、村田町は単独建設を選んだため、町長判断で、3町共同建設を断念することになりました。今後は、子どもたちに安心安全な給食提供ができるよう単独建設に向け計画を進めていくこととなります。

議会に説明は

質疑 町長は決断する前になぜ議会に諮らなかつたのか。

答弁 村田町議会常任委員会が単独での建設を選択した以上、柴田町としても単独建設の選択をした。今回は時間もなく、9月会議冒頭に説明することにした。

新聞報道について

質疑 議会に説明する前の新聞発表には遺憾と感ずるが。

答弁 今回は村田町議会常任委員会の結果をふまえ、電話取材に応じ、意思を伝えた。決して議会を無視したわけではない。

議会などへの説明経緯

H24/8/23	3町共同学校給食センター検討会を設置(建設可能性調査に着手)
H25/1/17	第1回議員全員協議会(各町議会に概要説明)
2/6	第2回議員全員協議会(今後の説明スケジュールについて説明)
4/16	第3回議員全員協議会(議会改選に伴い、再度概要説明など)
4/19~5/10	小・中学校保護者説明会(PTA総会時利用) 小・中学校保護者アンケート調査
6/10	第4回議員全員協議会(アンケート調査報告)
8/21	第5回議員全員協議会(建設計画、負担割合説明)
9/2	9月会議(断念した経緯と報道について町長説明と質疑応答)
9/5	第6回議員全員協議会(経過報告)

- 今後の対応**
- ① 当分の間、施設修繕で対応していく
 - ② 総合計画後期計画で、建設時期を明記する
 - ③ 「学校給食センター建設等整備基金」を積み立てしていく

陳情 不採択

産業建設常任委員会審査報告

○私道(船迫庚申地区)を町道に求める陳情
平成25年6月会議で産業建設常任委員会に付託された陳情が、不採択となりました。
不採択理由
① 行き止まりの道路であり、町道として受け入れるための条件を満たしていないこと。
② 同様の事例があつた場合、すべて町道として受け入れなければならないこと。

(仮称)さくら連絡橋 工事始まる

(仮称)さくら連絡橋新設工事(JR委託施行分1件、町独自施行工事分2件)、公共下水道事業2件、鷺沼雨水工事1件について契約案件を審議し、原案のとおり可決しました。

10月会議
10月9日開催

JR委託工事費
2億3,223万円

工事請負契約一覧

工事名	契約金額(消費税込)
(仮称)さくら連絡橋新設工事(JR委託施行分)	2億3,223万円
(仮称)さくら連絡橋建設工事(桁製作)(町単独施行分)	9,145万円
(仮称)さくら連絡橋建設工事(Ⅲ工区)(町単独施行分)	1億1,130万円
公共下水道事業新栄汚水枝線その1工事	6,405万円
公共下水道事業大原汚水幹線工事	5,775万円
柴田町・大河原町公共下水道事業鷺沼1号雨水幹線工事	4,966万円



※橋スロープをめだたせるため、桜が一部描かれていません。

議案第30号 (仮称)さくら連絡橋建設工事(Ⅲ工区)(町独自工事)

反対 討論

白内恵美子議員

車椅子の方も土手から連絡橋に上ることができるようスロープを設置するが、12割の勾配では利用困難である。自走式の車椅子の勾配限界が8割であることから、設置方法や必要性も含め十分に検討すべきだ。

議案第28号 平成25年度(仮称)さくら連絡橋新設工事(JR委託分)

賛成 討論

佐々木裕子議員

(仮称)さくら連絡橋建設で、船岡城址公園へ観光客の流れを変えることができる。危険なJRの横断もなくなり、観光客の安全確保につながる。町の活性化と安全性の確保から、連絡橋は必要である。

反対 討論

秋本好則議員

貯金に当たる柴田町の積立金比率は県で最下位。町長はこの連絡橋が商店街の売上増につながるいいとしている。館山の自然破壊や景観の問題もある。今は橋ではなく地域力をつける投資をすべき。立ち止まって再考を。

一般質問

ズバリ



あなたにかわって

ここが聞きたい

Q & A



一般質問は9月2日から4日までの3日間で行われ、17人の議員が質問しました。質問と答弁の内容について、その一部を掲載します。答弁者は、滝口町長、平間副町長、阿部教育長及び各担当課長等です。



平間奈緒美 議員

Q 「交通公園」を整備してはどうか

A 他の施設と組み合わせて整備できないか研究していく



角田市にある交通公園

自転車は、幼児から高齢者まで幅広い年齢層が活用している身近な交通手段の一つ。交通マナーについては、さらなる啓発活動や指導が必要と感じている。一歩進んだ町の取り組みや教育委員会としてどう取り組んでいくのか伺う。

問 自転車による交通事故の発生件数は。

答 平成25年7月末で事故件数は14件。特に高校生と高齢者の関係する自転車事故が、昨年より増

加している。

問 親子交通安全教室を開催していくべきではないか。

答 自転車による事故が増加傾向にあり、児童生徒が加害者となることも想定される。児童生徒の交通安全指導の徹底とあわせて、保護者参加型の交通安全教室や講習会などの開催について各学校に促していきたい。

問 親子で交通ルールを学べる施設「交通公園」を整備してはどうか。

答 交通安全教育の重要性から、他の子どもの施設と組み合わせて交通安全教育機能・設備を付加できないか、研究していく。

問 自転車レーンの設置は。

答 今年2月に新栄通線に設置可能か大河原警察署と協議したが、全線での設置は困難と判断された。さらに、現時点での市街地に自転車レーンを設置することは難しい。

一般質問



高藤義勝 議員

Q 平成27年度以降の介護サービスのあり方は

A 新規に(仮称)地域包括推進事業を導入し、介護予防にも努める



みんなで作ったおいしいも煮(春風)

平成27年度から要支援認定者を市町村の事業に移すことになるため、介護サービス問題は真摯に向き合って取り組む課題である。

問 65歳以上で、現在自立している人が要支援認定者にならないための対策は。

答 自立者支援通所事業の「春風」や「ランチを楽しむ会」を支援している。また、運動機能低下の予防のため玄米タンベールやウォーキングサークル

を支援している。さらに基本チェックリストなどを実施している。

問 介護サービスの質の低下が懸念されるが、どうとらえるか。

答 新規の事業になるので事業所と連携し、質の低下にならないよう指導していく。

問 自己負担の増大が憂慮されるが、どうか。

答 不透明な部分が多く、今後、国からの情報提供を待ちたい。

問 地域の支え合いや介護ボランティアの制度化だけで対応できるのか。

答 ボランティアなどでは無理なので、(仮称)地域包括推進事業を導入する必要があります。

問 国の補助メニューが増大すれば、マンパワー対策が必要ではないか。

答 町の社会福祉協議会介護ボランティアや新たに設立されるNPOなどを積極的に地域のマンパワーを活用する。

文教厚生常任委員会で、滋賀県湖南市の発達支援システムについて視察して来た。湖南市には、障がい者福祉の父と言われる糸賀一雄氏が創設した近江学園を初め、多くの障がい者福祉施設が設置されている。システムの特徴は、障害を早期に発見し、乳幼児期から就労期まで、関係機関による横の連携による支援と、個別の指導計画による縦の連携による支援を提供することである。

問 柴田町の発達支援を必要とする子どもたちの発見の方法はどのように。

答 1歳6カ月時及び3歳児健康診査の機会を通して、早期発見に努めている。保護者からの相談で発見する場合もある。

問 町の発達支援の体制はいかに。

答 湖南市のような発達支援室の体制はないが、各課が連携を密にして対応している。県発達障害者支援センターの発達相談にもつなげている。

問 湖南市は障がい者のための条例も制定している。柴田町も条例を制定して発達支援を初めとして、障がい者福祉の向上を図るべきではないか。

答 町では、関係機関の連携のもとに、適切な支援ができていないと認識している。条例制定については、今後、機運の盛り上がりを見守っていききたいと考えている。

Q 障がい者発達支援システムについて

A 各課の連携を密にして支援している



舟山 彰 議員



むつみ学園



吉田和夫 議員

Q 特定健診の受診率アップと健康マイレージについて

A (仮称)しばた健康づくりポイント事業として来年4月に向けて準備する



保健センターでの健診風景

問 宮城県で出した「第2次みやぎ21健康プラン」によると、平成22年度のメタボリックシンドロームの該当者は17・5割、全国ワースト2位ということで大変驚いた。柴田町では第2期特定健診実施計画を策定し、受診率を6割としているが、受診率の新たな取り組みとはどんなものか。

答 今年度から国の基準項目のほかに、血清クレアチニンと尿酸の健診項目を追加し、腎機能検査の充実を図った。また、未受診者への受診勧奨の面から40代、50代の未受診者に対し、受診を勧める勧奨通知を9月中旬に送付予定。集団健診を夜間、土日に実施するなど、受診しやすい環境づくりに努めていく。

問 健康寿命を延ばしていくために、各自自治体で健康マイレージの取り組みを行っている。これは、健康診断の受診やスポーツ活動への参加などでポイントをためて、楽しみながら健康にチャレンジするものである。高齢化社会を見据えた施策として、実施してはどうか。

答 自らの健康づくりの実践ポイントとし、たまったポイントの商品などに交換できる事業であるが、多くの市町村で工夫して実施されている。健康づくりポイント制度として来年4月に向けて準備する。

問 老朽化対策も含め将来の施設の在り方を探る、体育施設整備基本構想の進捗状況は。

答 昨年、生涯学習課プロジェクトチームを編成し、防災拠点施設整備事業としての体育館、既存の体育施設の整備計画、生涯教育総合運動場（農村環境改善センター隣地）やパークゴルフ場の在り方の調査検討を行っている。視察なども含め延べ9回にわたり会議を開催し、原案を作成した

問 判断している。

問 いつ頃を完成時期と考えているのか。

答 パークゴルフ場については、パークゴルフ場研究会が10月にまとめる予定である。総合体育館については、今後体育協会をはじめ、スポーツ関係者などの意見をいただいて、来年3月ころには、ある程度の方向性を見出し、情報を提供していきたい。

問 生涯教育総合運動場は、特定のスポーツだけでなく、子どもから大人まで幅広く使用でき、町内だけでなく他町からも来て遊び、勉強できるような施設にする考えはどうか。

答 人工芝を含めたグラウンド、クラブハウス、シャワー室などを備えたらどうかとの考えもある。既存の施設と競合しないような施設で、一つの競技にこだわることなく、多目的に使える運動場に整備して行きたい。

Q 体育施設整備基本構想は、どの程度進んでいるのか

A まだ原案作成の段階である



高橋たい子 議員



相馬市にある相馬光陽パークゴルフ場



水戸義裕 議員

Q 公共建築木材利用促進法を活用し、公共施設の建築を

A 町産材の利用の促進や森林資源の利活用に取り組む



伐採後植林された町有林（入間田字幡条）

問 我が国の森林は国土の7割を占める。先進国中で第3位と、森林資源は乏しい訳ではなく、使われないのが現状。国産材の需要は増えているが、国内利用のうち、7割が輸入材である。

答 町有林は147ヶ所あり、平成24年度はそのうち約10・5ヶ所を整備。年次計画で、下刈り・除伐・枝打ち・間伐をし、林道や

作業道の適正な維持管理を実施。森林資源の循環的な利用促進など、公益的機能の確保に努めていく。

問 森林資源の活用から地域活性化の考え方を。

答 都市と農村の交流を軸に活用を推進。地域活性化のため、里山ハイキングと農産物直売、町民憩いの森と太陽の村の連携強化を図っていく。

問 町産材使用の公共施設の計画は。

答 森林整備加速化林業

再生事業で観光物産交流館を。（仮称）船迫子どもセンターの整備も予定。木造の公共施設計画を今後も考えていく。

問 地元産材の利用に対する国の補助内容は。

答 基本方針は町で考えるが、国から2分の1と有利な補助事業で、公共木造建築ができています。

問 林道の整備計画は、年にどれ位になるのか。

答 8路線15岐の林道があり、全地区の草刈り清掃などを実施している。

問 「新学習指導要領・生きる力」で、部活動は学校管理下となった。大会や練習試合などで遠方会場への選手移動は、生徒の安全確保を考え、営業車や公用車がベターと考えるが。

答 本町では、郡中体連などの大会は予算を措置し、借上げバスで生徒を送迎している。

問 町所有バスの運行拡充は。

答 町の主催事業の送迎を中心に、平成24年度で

は240回運行している。車両台数、運転者の確保の点から、拡充は難しい。

問 公共交通機関の不便さや練習試合などで長距離移動となる場合、学校などどんな方法で行うのか。

答 保護者の自家用車で、協力いただいている。

問 保護者の送迎において、責任の所在や補償などの明確な説明もなく、万が一事故が発生した時の対応は。

答 町は、スポーツ振興センター災害共済や県P

TA連合会安全互助事業の保険制度のほか、万が一の対応に補償制度にも加入している。

問 子どもたちの安全確保のため、保護者・学校などを含む会議で、ガイドラインの作成を。

答 保護者の意見もいただき、ガイドラインの必要性も含め検討したい。

Q 部活動の移動手段の環境整備を

A ガイドラインの必要性も含め検討したい



佐々木裕子 議員



活発な部活動（船岡中バスケットボール部）

地域計画は何回も役員会を開き、意見の集約をした労作だと思う。私たちの地域は私たちで動かすという「補完性の原則」での計画づくり、これが住民自治の第一歩だと思う。

問 総合計画での位置付けはどうか。自助・共助・公助と言われるが、地域で行うもの、協働で行うもの、自治体が担うべきものなど行政と地域の役割分担は。また、計画には地区毎のばらばらな活動より効果的な運動もある。目的別に集まったグループや事業者との連携は。まちづくり推進センターの中間支援機能が重要になるが、体制は。

答 自治会などが策定する地域計画は、総合計画策定の資料となる。また公共サービスの担い手为官に限定することなく、役割分担、協働の条件や手法を創っていくことが行政の仕事になる。事業調整書を作成し、関連部署との調整のうえ、地域への報告と説明を行っている。枠組みは現在、行政区単位の事業を中心に進めているが、将来的には小学校区単位の枠組みもあると各行政区に説明をしている。



Q 地域計画について自助・共助・公助のしくみを

A 役割分担、協働の条件や手法を整備していくことが行政の仕事

秋本好則 議員



地区集会所と街路灯



広沢 真 議員

Q 生活保護基準の切り下げの影響は

「社会保障は自助が基本」という安倍政権のもとで、生活保護基準の切り下げが行われ、影響が懸念される。影響は生活保護にとどまらず、社会保障の各種制度に大きく影響が及ぶ。町民への影響がどうなるのか。

A 今のところ大きな影響はない

問 低所得者向け減免制度の多くは、生活保護基準に連動している。減免制度を受けられなくなる世帯はないのか懸念されるが、国民健康保険の減免制度への影響は。

答 国保の減免対象者は、実際に生活保護を受給している世帯が対象なので、影響はないと考えている。

問 介護保険の減免制度への影響は。

答 生活保護を受給していれば、保険料、利用料は保護費で負担されるが、



生活保護申請書

今回は大きく影響は出ていないと考える。

問 就学援助、保育料減免への影響は。

答 要保護者への就学援助は、国の通達で引き続き国の補助の対象となる。町独自の準要保護者への援助は、引き続き行う。保育料の減免は、保護廃止となる場合でも生活困窮と判断されれば、町独自で無料にできる。



佐々木守 議員

Q 土砂災害防止法に基づく基礎調査の結果は

A 宮城県大河原土木事務所主催で、8月25日に説明会を開催した



災害危険区域にある太陽の村入り口

問 土砂災害防止法に基づく基礎調査の結果の内容は

答 土砂災害のおそれのある箇所では、対策工事というハード対策だけでなく、土砂災害のおそれのある区域を明らかにし、警戒避難体制の整備や一定の行為の制限等のソフト対策を行う必要性が強く認識され、平成13年4月に土砂災害防止法が施行された。

柴田町の土砂災害が発生するおそれのある急傾斜地崩壊危険箇所は76カ所、土石流危険渓流は64カ所、地すべり危険箇所は4カ所、合わせて144カ所を宮城県が公表している。

問 土砂災害が発生するおそれのある急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流、地すべり危険箇所などの住民への説明は。

答 宮城県大河原土木事務所主催で、8月25日3回に分けて船迫生涯学習センターを会場として開催した。29A区、29C区、

29D区の対象者396人の地区住民、地権者などうち、163人が参加した中で、西船迫地区の13カ所について説明した。大河原土木事務所河川砂防第2班4人と、町から都市建設課、総務課の4人の計8人が出席し、参加者からの質疑に対して回答した。今後予算の伴うものは、県と協議し対応していく。

29D区の対象者396人の地区住民、地権者などうち、163人が参加した中で、西船迫地区の13カ所について説明した。大河原土木事務所河川砂防第2班4人と、町から都市建設課、総務課の4人の計8人が出席し、参加者からの質疑に対して回答した。今後予算の伴うものは、県と協議し対応していく。



白内恵美子 議員

Q 予算編成過程の公開を

A 効果が薄いので公開しない



柴田町予算書と全戸配布されている「よくわかる町の仕事と予算」

問 財政が厳しい中で持続可能な町をつくるには、政策の取捨選択、事業の優先順位の決定が重要である。事業の目的や必要性、事業費などを明らかにするために、予算編成過程を住民に公開することを提案する。

答 予算編成作業は、例年11月中旬に予算編成方針を発表し、各課の予算要求書の提出期限を12月中旬としている。その後、財政課長によるヒアリングの他、一部事業は町長

副町長、まちづくり政策課長を含めて、総合計画との調整会議を行う。1月初旬に町長、副町長との調整を行い、最終的な予算案が決定する。

問 柴田町は経常経費が93・1割とぎりぎりの財政状況であり、人件費、扶助費、公債費などの義務的経費や、施設の維持補修費の確保を優先せざるを得ないため、予算編成過程を公開しても効果は薄い。

答 柴田町住民自治によ

るまちづくり基本条例では、行政運営の透明化をうたっており、予算編成過程の公開が基本では。

答 公開は有用だと思うが、柴田町の予算編成は、財政調整基金などを充てながらの非常に苦しい編成であり、要求額を削ることが主な仕事となる。未成熟なものを出し、町民に誤解を与えるより、議会の承認後に「よくわかる町の仕事と予算」を全戸配布するのがベストと考える。



平間幸弘 議員

Q 公共サインの整備を

A 必要性を認識し、計画的に整備する



整備が待たれる公共サイン

問 柴田町総合計画前期計画に「美しい町創造プロジェクト」「食と農による地域づくりプロジェクト」「タウンセールス推進プロジェクト」を掲げているが、人を案内するために、重要な公共サインの整備計画が含まれていないのはなぜか。

答 平成11年3月に柴田町サイン計画を策定し、13年度までの3年間は計画的に設置してきた。その後、合併協議により施設名称に変更が生じる可能性があったことや、町

の財政再建プラン、行政サービスの増加に伴う政策の優先順位を勘案した結果、サイン計画の実施を一時凍結していた。

問 公共サインの整備状況をどのように認識しているか。

答 同程度の近隣市町と比較し、劣らない設置状況であると考え。しかし、まだまだ不十分であることは否めない。

問 市街地とは違い農村部には目標物が少ないことから、農村部から早急にサイン整備を進める考

えはないか。

答 今後のまちづくりは、町なかから農村地域や里山へと誘導するという考え方に変わってきているので、優先的に整備を図らなければならないと認識している。

問 年次計画を立て、順次整備をする考えはないか。

答 整備が必要との認識は持っているが、1基200万円以上もすることから、計画的に整備していきたい。

問 何年度に建設するという計画を持っているか。

答 町の各種事業などへの対応や補助金の確保など総合的に判断すると、平成28年度以降の着手になる。

問 どのくらいの規模を考えているのか。

答 柔剣道もできるアリーナの面積は、おおよそ1千650平方メートルを考えている。メインアリーナについては、船岡体育館の2倍ぐらいの広さを確保したい。

問 計画をたてるに当たり、スポーツ関係者（町民）などから意見を聞く機会を設ける考えは。

答 体育協会などスポーツ団体や愛好者、そしてスポーツ推進委員、文化協会などの意見交換を行う予定である。

問 各関係者、団体との意見交換会の時期は、いつごろ予定しているか。

答 10月に体育協会関係と、11月に文化協会やスポーツ振興審議会と持ちたい。

問 建設基金を積み立てるなど、資金の裏付けを図ることが必須では。

答 現在のスポーツ振興基金は、3千960万円。毎年5千万円ずつ積み立てを行う計画である。

問 どのような補助金を当てるのか。

答 文部科学省の「学校施設環境改善交付金」で3分の1補助となつている。補助単価や補助上限面積が定められており、総工事費全体が対象とはならない。

Q 町体育館建設に取り組む基本的な考えは

A 総合体育館の建設は、平成28年度以降に着手



安部俊三 議員



利用率の高い船岡体育館

問 船岡城址公園と白石川堤の桜が老木になりつつあることは、重大な課題と捉えている。町は、しばたの桜100年計画策定依頼をしているが、委託内容は。

答 若木、老木の桜をどのように保護していくか、更新の時期や可能性、今後の育成を含め、将来のしばたの桜のありようを定める内容としている。

問 樹齢が白石川堤の桜が90年、船岡城址公園の桜が106年。しばたの桜100



桜場政行 議員

Q 観光を推進している町に
取り組んでほしいこと

A 児童生徒も巻き込んだ
観光となるよう働きかけをしていく

年計画を進めながら、さくらプロジェクトの立ち上げを考えると。

答 貴重な提案だと思っプロジェクトにつながるか定かではないが、コンサルティングの業務で委託する中で、全国の情報を集めながら、研究者、樹木医、桜の会など、自由な意見を交換する場面を作っていく。

問 平成27年（仮称）さくら連絡橋が完成する。町民がいつでも足を運べる魅力ある船岡城址公園



樹齢 106 年の船岡城址公園の桜

にするため、町内の小中学校の児童生徒に「行ってみたい船岡城址公園」というテーマで作文を書いてもらうことはできないか。

答 防犯ポスターや防火作文などのように、小中学校の夏休みの課題として、教育委員会を通してお願いしていく。また、子ども議会のテーマの1つとしてもらえよう働きかけていく。



星 吉郎 議員

Q どうなった。
槻木南浦冠水対策

A 現地確認と、稲荷山用水路との
接続方法を検討している

問 冠水対策では、何回も質問してきた。稲荷山用水路に分水門を取り付け、四日市場排水機場に雨水を流すことでは、解決策が取られた。しかし、槻木南浦地区の冠水は、側溝の浅さ、水路の狭さ、道路の低さなどにも原因がある。冠水地が多く、稲荷山用水路まで雨水の流れを作るのに問題があり、急を要している。

れて進めるとの答弁だったが、その進捗状況は。

答 槻木南浦冠水対策として、コンサルタントと打ち合わせた内容は、2つある。一つ目は、新しい排水ルートで、郵便局から稲荷山用水路に流す提案である。手始めとして、槻木生涯学習センターの旧県道交差点付近の、地下埋設物の位置と高さを確認する。

二つ目は、稲荷山用水路の水位の問題である。稲荷山用水路に水がなければ、接続しただけで速やかに流れていくが、雨が降っていると水位が高く、ただ接続しただけで流れていくかどうかということの検討である。

この2つの点を、今詰めているところである。9月中にはおおよその方向性が定まると思う。



一日も早い冠水対策の改善を（9月15日の槻木地区）

一般質問



有賀光子 議員

Q 「子ども安心カード」の作成を

A 学校の実情と意向を確認しながら検討していく



渋川市で利用している「子ども安心カード」

昨年12月、東京都調布市の市立小学校で、食物アレルギーのあった児童が給食でおかわりをした際に、誤ってチーズ入りのチヂミを食べ、死亡事故が発生した。これを受け、文部科学省は7月末、同省の有識者会議の中間報告で、事故の再発防止に向け、アレルギーがある児童生徒への対応に関する全国調査に乗り出した。

問 柴田町では、給食アレルギー事故の再発防止に、どのように取り組むのか。
答 学校現場の状況を確認しながら、給食アレルギー事故防止策を進めていく。
問 緊急時に備えた学校と消防署との連携強化と、その対応は。
答 現在、アナフィラキシーショックを起こすほどの症状にある児童生徒がいないことから、独自のマニュアルを作成している学校はない。

問 病気やけが、アレルギー症状で救急搬送される際、学校と消防署などが迅速に連携できるように、子どもの病院などを記入する緊急時対応の「子ども安心カード」を作成してはどうか。
答 導入については、各学校の実情と意向を確認しながら検討していく。



我妻弘国 議員

Q 子ども集客一番のトランポリンを太陽の村に

A 子どもの集客に最も有効と捉えている。設置する方向で計画する



遊具整備が待たれる太陽の村

問 太陽の村の客数は。
答 昭和54年当時は10万人以上となっていたが、平成24年度は2万7千324人である。
問 太陽の村の整備方針を伺いたい。
答 平成22年太陽の村交流再生化計画の中で、ふわふわドーム、アスレチック、ターザンロープなどの遊具整備を考えていた。主要な財源確保のためとして旧館のリニューアルを計画し、花壇整備ではメンテナンス

にあまり手のかからないワイルドフラワーを使う方向で整備計画をまとめたい。
問 トランポリンは子どもの集客に有効と考えているので、再生化年次計画で設置したい。
答 ふわふわドームのトランポリンはどんなタイプを考えているのか。
答 仙台市と同形だが仙台市は152平方メートル、町は137平方メートルを考えている。
問 耐用年数はどのくらいなのか。

答 10年から15年といわれているが、実際はそれ以上持つらしい。
問 遊具整備の費用の見積もり額は。
答 整備補助メニューがないことで、5千万円程度を考えている。ふわふわドームについては、1千500万円程度を考えている。

掲載した質問のほかに、次の項目がありました。

平間奈緒美 議員

問 町の活性化の起爆剤である「はなみちゃん」の積極的活用を。

答 各関係団体と連携し、町の知名度とブランド価値を高めながら、積極的に活用していく。

舟山 彰 議員

問 柴田町内の学校でアレルギーを持った生徒は何人いて、学校ではどう対応しているのか。

答 小学校で79人、中学校で50人。摂取できない食材を、本人が除去している。

吉田和夫 議員

問 肺がん検診の受診率アップを。

答 検診の申し込みをした方が、未受診とならないよう、再勧奨の通知や受診催促を図る。

水戸義裕 議員

問 一次避難所になる集会所など、町の公共施設に再生可能エネルギーの設置を。

答 太陽光発電設置施設に、防災拠点の庁舎、太陽の村、地域福祉センターへの導入を予定。

秋本好則 議員

問 (仮称)さくら連絡橋と商店街振興策について。

答 (仮称)さくら連絡橋の建設により、全ての商店で売り上げが増加するということはない。

広沢 真 議員

問 国民健康保険特別会計の見通しは。

答 基金額の見込みは2億5千万円で必ずしも十分ではない。医療費、繰越金の動向で変わる。

佐々木 守 議員

問 要支援者への(仮称)地域包括推進事業に移行した場合、同じサービス提供ができるのか。

答 市町村事業へ移行となると、各市町村の事情、地域特性により市町村の裁量になる。

白内恵美子 議員

問 政策提案は、誰にどんな効果を与えるのか、具体的な目的や効果を明確にすべきでは。

答 政策立案は住民の意見の集約に努め、目的を定めて成果を念頭に置きながら行っている。

問 給食センターは町単独となった。全国の6割が自校式であり、自校式も検討すべきでは。

答 自校式の検討もすべきだが、共同調理方式より建設費だけでも費用がかかると推計する。

問 各小中学校担当者が集まる「学校図書館主任会議」を毎月1回開催することを提案する。

答 来年度実施に向けて検討する。今年度は町図書館との連携会議を今後2回開催する。

桜場政行 議員

問 ザ・フェスティバル in しばたの補助金の増額を。

答 事業内容を確認したうえで、査定する。

星 吉郎 議員

問 生涯教育総合運動場の遊休地の有効活用は。

答 既存施設と重複しない、町民に愛されるスポーツエリアにしたい。

有賀光子 議員

問 保育サービスの情報提供を行う「保育コンシェルジュ」の取り組みを実施すべきでは。

答 地域の子育て支援を拡充した地域子育て支援拠点事業の実施を検討する。

我妻弘国 議員

問 昨年6月定例会でパークゴルフ場整備の提案があった。その後の進捗状況は。

答 パークゴルフ場研究会での意見を集約し、その結果を踏まえ整備方針をまとめていく。

今年7回目となる議会懇談会を8月に開催しました。

町民を対象にした「一般懇談会」を8月3日と4日に、町内の団体を対象にした「団体懇談会」を8月24日にそれぞれ開催し、参加された皆様方から貴重なご意見を頂戴しました。

いただいたご意見や要望は今後とも議会活動、町政に活かしていきます。

また、ご意見の中には、回答が遅いとの意見もあり、今回議会だよりの紙面を使い、執行部からの回答の一部を掲載し報告します。

一般懇談会

今回は懇談のテーマを「介護の実態と、これからの介護」と「町政・議会全般」として、6会場において、町民の皆様から意見や要望をいただきました。

参加者数は6会場合わせて71人（前年は56人）と、前年より15人の増でした。

町でラジオの貸与を

質問 ラジオ体操で介護予防をするためにラジオを貸与している町がある。柴田町でもできないか。

回答 毎日同じ時間に流れるラジオ体操は、その時間にしかできない。個人で体操をするにしても、体操の指導や、地域包括の観点を考えると、町でフォローしている「玄米ダンベル」や、「ノルディックウォーキング」などの活動に加入していただくことで、引きこもり防止にもなると考

える。

介護居宅支援金の制度を知っているか

質問 利用の条件は厳しいが、各市町村に介護居宅支援金があることを知らない人が多いが。

回答 介護家族慰労金支給事業は、非課税世帯で在宅の要介護4もしくは5の在宅高齢者を介護している家族で、届け出の基準日より一年間介護保険サービスを利用しない場合、10万円を支給するものである。介護保険を利用している人は対象外だが、町では近年支給実績はない。

介護保険料の支払いについて

質問 収入がないのに、なぜ介護保険料を支払わなければならないのか。

回答 社会保障制度であり、相互扶助の立場から所得のない人や、低所得者でも負担してもらう。

ただし、生活保護者や、低所得者の方には軽減策が設けられている。

介護施設は増えるのか

質問 柴田町の介護施設を増やせないか。

回答 高齢者の増加に伴い、3年ごとに介護保険事業計画を策定するのに合わせて、介護施設を増やすことを検討している。

平成26年度からは、町内で初めての小規模多機能型居宅サービスが実施される予定である。

高齢者のための公園が必要では

質問 子どもたちの利用が少ない公園は、グラウンド・ゴルフやパークゴルフ場として利用できるようなならないか。高齢者の介護予防にもつながると考えるが。

回答 公園においてさまざまなスポーツ活動を行うことは良いことである。高齢者のためだけの公園整備は考えていないが、介護予防のための器具を整備している。

役場庁舎の建て替えは

質問 総合体育館の建設が予定されているが、役場庁舎の問題もあるのでは。庁舎は老朽化し、駐車場も不足している。

回答 トッコン跡地が無理なら農村環境改善センターはどうか。

回答 新庁舎建設の前に、優先しなければならぬ事業（学校の大規模改修・総合体育館や本格的な図書館の建設・雨水対策など）がある。それらの道筋を付けてから、庁舎建設を検討していく。

空き家対策は

質問 空き家の雑草や木が生い茂り、境界線を越えている。平成27年度に条例をつくることだが、待てない状況だ。

回答 平成25年度から町の関係各課と連携体制を立ち上げ対策を講じる。

行政区長会議において町内の空き家、空き地の状況調査をお願いしている。今後は所有者に対し適正管理の指導を行うとともに問題点を整理し、条例作成に向け取り組んでいく。



一般懇談会（保健センター）

平成25年 議会懇談会を開催

団体懇談会

今回は、婦人防火クラブ連合会の皆様との懇談会を開催しました。

議会活動の報告の後、防火クラブの現状についての説明を受け、その後活発な意見交換が行われました。

災害時の広報は適切だったか

質問 東日本大震災の時に広報車の声小さく聞き取りづらかった。そのため、給水所や避難所の情報が伝わらなかった。大きな通りだけでなく小さな通りも巡回し、隅々まで広報してほしい。

回答 広報車のスピーカーの向きで横方向が聞き取りにくかったようだ。今後は広報車を増やし、隅々までの広報が必要と考えている。町では「お知らせ版」や「防災メール」で情報の発信をする。町民の皆様の積極的な受信の協力をお願いする。

一時避難場所と避難所の違いは

質問 避難訓練時に避難に利用していた船迫小中学校だったが、震災発生時の避難場所が違っていった。

回答 船迫小中学校は「一時避難場所」である。船迫生涯学習センターは避難者の収容を目的とし、炊事、宿泊などの利便性と職員の配置を考慮して、「避難所」に指定をしていた。PR不足があったので、今後、機会あることにPRに努める。

災害時の避難所の運営方針は

質問 避難訓練時と違い支援物資の量や内容に偏りがあった。各避難所で共通の運営方針はあるのか。

回答 今回の大震災は想定外の規模であったため迷惑をおかけした。今後、避難所運営のマニュアル作成を区長・自主防災組織の方々と検討する。

各施設の利用について

質問 各施設（公民館など）によって対応がまちまちなので運営方針を統一し、利用者の立場になって貸し出してほしい。

回答 毎月施設長会議、施設連絡会議を開催し、各施設の情報共有と運営方針の確認をしている。不便をかけていることがあれば、生涯学習課まで意見をいただき、改善できるものは対応していく。

桜まつり時の駐車場について

質問 桜まつりの時に、柴田大橋付近の白石川堤防に車を乗り捨てていく人がいる。早急に駐車場を確保しないと、今後も違法駐車が増えるのでは。

回答 期間中は、白石川河川敷に駐車場を設けて対応している。来年度は警備員を増員し、車の乗り捨てができないように対応する。

「一般懇談会」参加者数 及び 意見・質問・要望件数

開催日	会場	参加人数	項目	件数
8月3日	柴田町保健センター	11人	介護に関すること	22件
	槻木生涯学習センター	12人		
	船迫生涯学習センター	19人	町政に関すること	42件
	船岡生涯学習センター	5人		
8月4日	農村環境改善センター	7人	議会に関すること	17件
	西住公民館	17人		
計		71人	計	81件

「団体懇談会」参加者数 及び 意見・質問・要望件数

開催日	会場	参加人数	項目	件数
8月24日	柴田町保健センター	27人	災害時の対応について	8件
			各施設の利用について	4件
			その他	4件
			議会に関すること	2件
			計	18件



婦人防火クラブ連合会との団体懇談会

●今回の議会懇談会の報告書は、12月中旬頃に、開催会場の各施設へ配布します。また、町のホームページにも掲載しますので、閲覧ください。

議会からの指摘事項（所管事務調査報告書）

常任委員会レポート

各常任委員会は
各課の仕事を
調査しています。

総務

■ 調査日 平成25年7月16日・17日
■ 調査事項

- (1) 仙南地域広域行政事務組合の産業廃棄物処理について
 - 大河原衛生センター、仙南最終処分場、仙南リサイクルセンター、及び（仮称）仙南クリーンセンター建設予定地の視察。
- (2) 税金のコンビニ収納について

納税者の利便性向上の施策を

《町民環境課》

○ 財政負担軽減と最終処分場の延命化にもなるため、ごみ減量化及び分別の周知徹底に努めること。

《税務課》

○ 岩沼市で納税者への利便性向上の施策を見てきた。

当町においても収納率向上に努めること、及び納税者の利便性向上の施策についても検討された。



仙南リサイクルセンター

文教厚生

■ 調査日 平成25年7月22日・23日
■ 調査事項

- (1) 町内保育所の管理運営について
- (2) 新たな学校施設整備について
 - 福島県伊達市立保原小学校への行政視察

保護者の現状を把握し、適切な支援を

《子ども家庭課》

○ 保育所入所者の潜在的な需要の把握に努め、適切な支援が受けられるよう努めること。

○ 保育所周辺には駐車場が少なく、送迎時には周辺道路の混雑が見られるため、駐車場の確保など事故を未然に防ぐ努力をすること。

○ 槻木保育所は「ゆとりの育児支援事業」を行っている。

槻木地区でゆとりの育児支援事業の早期実現に努めること。



保原小学校のクラスター型教室

産業建設

■ 調査日 平成25年6月17日・21日、8月1日・2日
■ 調査事項

- (1) 水道料金徴収等管理業務委託について
- (2) 鷲沼排水区雨水整備事業について
- (3) 町営住宅の計画について
- (4) 有害鳥獣被害対策事業について

地域住民への十分な説明を

《上下水道課》

○ 水道の委託事業は、事務事業の課題を洗い出し、事業に精通する職員が減少することから補完する仕組みを検討すること。水道料金を維持すること。

また、下水道事業受益者負担金の徴収及び未集金管理業務は再検討すること。

○ 鷲沼排水区雨水整備事業では地域住民に十分に説明するとともに、既設排水路の整備を行うこと。また、調整池では地質調査を十分にを行い、危険防止策を講じること。

《都市建設課》

○ 西船迫町営住宅外壁改修工事では住宅の長寿命化に有効な屋根の防水工事も検討すること。

《農政課》

○ イノシシの被害を防ぐため、被害が出たら町に報告するように依頼し、猟友会の後継者育成にも努めること。

産業建設常任委員会報告

雨水対策事業スタート

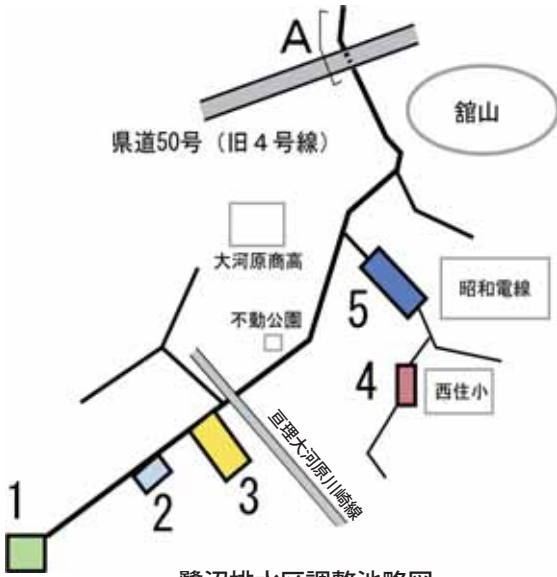
鷺沼排水区雨水整備事業

柴田町の大住、杉崎、西住町、大河原町の高砂町、稗田前付近は、雨水による浸水被害が多発している地域で、浸水被害対策が緊急課題でした。

平成16年に、柴田町と大河原町が共同で抜本的な雨水対策事業を受けるように計画策定を行うことを合意し、協議をしてきましたが、今年度から工事が始まります。

平成16年～18年	測量、排水路の調査
平成19年～20年	地質調査、設計協議
平成21年～24年	事業認可、詳細設計

これまでの経緯は次のとおりです。



鷺沼排水区調整池略図

大河原町との事業費の負担割合は、柴田町43・4割、大河原町56・6割です。(雨水の流出量で負担割合決定)

この地区の雨水排水の区域は、柴田町154・3畝、大河原町216・3畝、合計370・6畝です。

雨水は道路脇の側溝を流れ、最後は白石川に行きますが、白石川に放流できる水の量にも限界があるため、川の水量が減るまで一時的に蓄える施設が必要になります。そのため5カ所の調整池を作り、タイミングを見計らって白石川に放水する計画です。この工事が完成すると時間雨量50ミリ程度では、水害が起きなくなると考えられます。

柴田町分2カ所の調整池は、公園の下に地下式の貯留槽を作るものです。そのため、現在の公園は一時的に使用できなくなりますが、地下貯留槽が完成すれば、その上はまた使えるようになります。どのよう

に使用して行くか、地域の方々と話し合ったうえで決めて行く予定です。

工期は平成39年度までの15年間で、総工事費は65億円の予定です。今年度は上の図のAの部分で、県道50号線(旧4号線)を潜る最下流部分で、水路の幅を大きくし、曲がりも緩やかにします。

1	鷺沼1号調整池	オープン方式	大河原
	7,800m ³		
2	鷺沼2号調整池	地下式	大河原
	5,300m ³	山崎公園	
3	鷺沼3号調整池	オープン方式	大河原
	28,600m ³		
4	鷺沼4号調整池	地下式	柴田町
	1,900m ³	大住公園	
5	鷺沼5号調整池	地下式	柴田町
	27,000m ³	清住2号公園	

産業建設常任委員会では、資料と現地を調査し、工事の方向性を承認しました。常任委員会レポートにあります。委員会として指摘をしています。その中の既設排水路の改修は、緊急性の高いものから順に進めていくことになっていきます。

槻木地区雨水対策事業

槻木地区も水害の常襲地域です。これまで槻木白幡・槻木上町・槻木下町・槻木西地区の被害を分析し、五間堀や稲荷山用水路の排水方法を検討しました。昨年度に四日市場地内に分水門を作りましたが、今年度から郵便局付近から飯淵歯科医院前を通る側溝の改修計画に入ります。

最初に槻木生涯学習センター交差点付近の地下埋設物の調査を始め、次に詳細設計に入る予定です。



槻木地区排水計画 (抜粋)

H25.9.15の槻木郵便局付近



あなたの一言



伊藤 章子さん
(四日市場字腰巡在住)

【柴田町に住んで良かった点は】

結婚を機に、縁あって柴田町四日市場に越してきました。近所の皆さんも、とても親切で安心しました。また、広々とした田園風景と空気が澄んできれいです。我が家から見える蔵王も特にきれいで、来てよかったです。感謝しています。

【柴田町の好きな風景・場所は】

やはり百選にも選ばれている、船岡城址公園から望む白石川と蔵王の山々です。春には必ず友人を誘い、花見の宴を計画しています。

【柴田町に何を望みますか】

子どもがまだ小さいので、教

未来へ向けて

育環境や通学路の安全対策をお願いします。未来を担う大切な子どもたちを、伸び伸びと健康で明るく育てていきたいです。

【議会だよりを読んでいますか】

町民として義務と感じているので、議員さんの動きや議会での質問内容など、興味をもってかかさず読んでいます。

【議会・議員に何を望みますか】

議員の皆さんは、町民の方々から様々な意見を伺っていると思います。すぐに解決するものなのか、いつごろになるのか、あるいはできないのか、大変むずかしいですが、わかるとうれしいです。

編集後記

この編集チームで3回目の「しばた議会だより」になりました。皆様いかがでしょうか。一町民の目線で作ったつもりですが、分かりやすく読みやすい編集になっているでしょうか。

私たちは一人一人が違う意見を持っているように、委員もいろんな考えを持っています。そのため編集過程でも、気を抜くと偏った編集になってしまふことがあります。

その折には安部委員長が的確な指摘を行い、修正を繰り返して原稿ができていきます。それでも連絡の不足から、思わぬ結果を生むこともあります。

私たちが前回出した141号では、一部に編集していない記事が出てしまいました。内容に間違いはありませんが、やはりミスと認めます。ミスはミスと認め、あえて公表することにより、再発させないという誓いしたいと思います。

私たち議員は、より一層自己研さんを重ね、良識を持った議会運営に努めなければなりません。その議会の動きを正確に皆様に伝え、活気があり、みんなの柴田町になるよう、「しばた議会だより」を作ってまいります。

柴田町では、議会も委員会も公開です。時折「大きな独り言」が聞こえるようですが、活気ある議会になっていると思います。是非ご覧下さい。そしてご意見をお寄せください。

議会広報常任委員 秋本 好則

ぜひ、議会の傍聴を!!

12月会議は
12月9日(月) 午前9時30分開会予定
一般質問は
12月9日(月)・10日(火)・11日(水)の予定
※詳しくは町議会事務局(☎55-2136)へお問い合わせ下さい。

町ホームページに本会議審議等結果各種会議の出欠状況を掲載

町ホームページ内、「行政・まちづくり」の中の「町議会 議会だより」「議会のうごき」に、委員会・全員協議会の出欠状況もあわせて掲載しています。

柴田町のホームページ
<http://www.town.shibata.miyagi.jp>